

第2章 川崎駅周辺活性化事業及び人材育成・情報発信

2-1 TMO通信の発行

かわさきTMO通信 2014-5月号 No.53

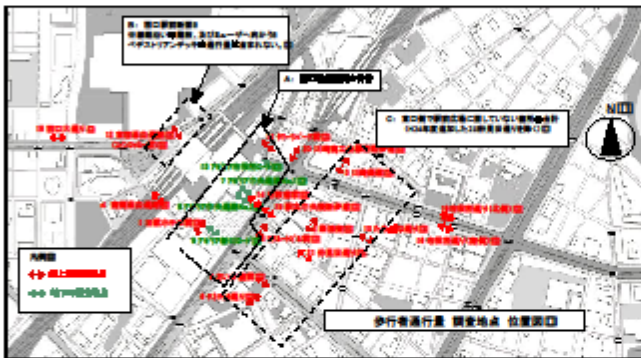
かわさきTMO通信

<毎度おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです>

2014年5月号 No.53

- 駅周辺通行量調査結果
- イベント自己評価の報告
- 事務局便り

発行元：川崎商工会議所
 発行責任者：会長 猪熊俊夫
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2014年5月25日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-211-4114
 FAX：044-211-4118
 Email：
 sasahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくり情報交換誌」を目指しています。タウンマネージャーにお気軽に情報をお寄せください。ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！



◇ 駅周辺通行量調査結果
 かわさきTMOでは、毎年川崎駅周辺地区の歩行者通行量調査(自転車数を含む)を行っています。今年(2014年)も3月2日(休日曜日)および3月6日(平日木曜日)の2日間、21か所の調査地点で午前10時から午後8時までの10時間にわたって、通行者数を調査しました。

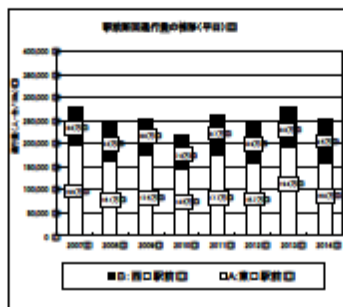
調査は、全地点で男性・女性・自転車を方向別に観測しています。調査結果は、「かわさきTMO平成25年度活動報告書」に全調査地点の結果が掲載されています。各データは、平日及び休日の2表あり、各表は、1時間ごと方向(2方向)別、男性、女性、自転車の通行者実数とその合計数が記されています。また、この数値は、一つのグラフにまとめられ、昨年度の調査結果と比較できるように表示されています。

ここでは、大きくJR川崎駅の東口および西口の断面交通量をみます。はじめに平日をみると東口断面は16万人、西口断面は9・5万人であわせて25・5万人になります。

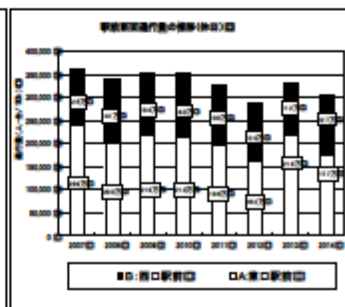
一方休日は、東口断面は17・7万人、西口断面は12・7万人とあわせて30・4万人と平日より東口及び西口の両断面とも多いことがわかります。

2007年以降の推移経度と比較すると、平日では概ね平均的な通行量ですが、休日はこの8年の中では、2番目に低い数値となっています。これは、主に東口断面が減少していることに起因しています。

次に、東口商店街エリアの通行量をみてみます。平日は、これまで10万人程度の通行量でありましたが、2008年以降減少傾向が続いています。本年の調査では、7・6万人となり減少に歯止めがかかっていません。一方、休日に目を向けると、平日以上の減少

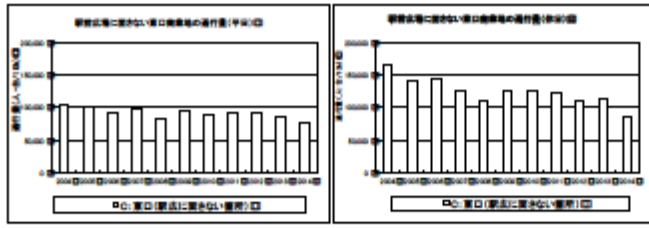


△ 駅前断面通行量の推移(平日)



△ 駅前断面通行量の推移(休日)

傾向がみられます。2004年には15万人を越えていましたが、2014年は、8・5万人程度となっており、東口商店街の集客力が年々減少しているとみなければなりません。多少雨に影響を受けたとは言えますが、大きな傾向は東口商店街のあり方を検討する必要があります。



△駅前広場に面さない東口商業地の通行量(平日) △駅前広場に面さない東口商業地の通行量(休日)

(タウンマネージャー笹原克)

◇イベント自己評価の報告

川崎駅周辺地区及び川崎区では、春秋と数多くのイベントが繰り広げられています。特に、秋の9月から11月にかけては、毎週連続的に様々なイベントが繰り広げられており、イベントや祭りは、「街の元気度」のパロメーターでもあります。

TMOでは、昨年度より「イベントの自己評価」を行っております。これは二つの目的を持って行っております。

一つは、各イベント主催者が自分たちのイベントを客観的にみて、その特徴、変化、実態を記録的につかむことです。そこから次年度への改善点を見出すことも可能です。もう一つは、各イベントが他のイベントとの相対評価を出来るようにすることにあります。秋のイベントが連続的に川崎駅周辺地区で展開される際に、個々のイベントが相互に連携しあいながら、地域全体のイベントを作り上げていくための、基礎となる記録となります。現在自己評価しているイベントは、10団体です。「かわさき阿波おどり」(来場者数1万5千人)「川崎市消費生活展」(8千人)「川崎みなと祭り」

(21万5千人)「銀座街秋祭り」(9万人)「いいじゃんかわさき」(8万8千人)「連連つなこうかわさき」(1万2千人)「川崎競馬秋まつり」(9千人)「カワサキハロウィン」(11万人)「市民と働く者のフェスタ」(1万人)「サンピアンかわさき感謝まつり」(6千人)。

自己評価内容は、各イベントの概要(名称、開催日、主催者名、会場、来場者数)の他に、PR活動の実績、マスコミの取材状況、他のイベントとの連携性、新規性・独自性、ボランティア活動状況、寄付協賛状況などが記載されています。

秋のイベントは、「フェスティバルなかわさき」として15団体が参加して共同PRを行っております。TMO主催の連連つなこうかわさきが幹事となって「共同PR」を実行しています。年々参加イベント団体が増えており、地域全体としてのイベント情報発信力が増しています。これらイベントをさらに充実させ、成果を確認していける方法として、イベント自己評価が力を発揮していくことをめざしております。

(タウンマネージャー笹原克)

◇事務局便り

○平日オープンカフェを実施しました(5月12、15、19、22日)。お天気の影響で、初日と最終日は半日のみの開催となりましたが、途中2日間は、平日にも関わらず多くの方(19日には65名)にご利用いただきました。ただ、強風にあおられ傘が破損したり、ゲリラ雨に見舞われ、大慌てで片付けなど、オープンカフェの課題も見えてきた実験となりました。

○商店街協定認定店に、川崎駅前仲見世通商店街振興組合推薦の「フェエル」(東田町11-10)と川崎砂子会協同組合推薦の「型無夢荘」(川崎区砂子2-7-6)の2店舗が加わり、認定店は23店舗になりました。



「型無夢荘」(写真上)と「Fuel フェエル」(写真下)

○かわさきTMOの2014年度第1回総会を6月23日(月)に開催します。会員の皆様にはぜひご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

(事務局 六反友佳里)

かわさきTMO通信

<毎度おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです>

2014年8月号 No.54

- 道路適正利用一斉パトロール
- 客引き規制条例づくりへ
- 総会開催報告

発行元：川崎高工会議所
 発行責任者：会長 篠原俊夫
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2014年8月25日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-211-4114
 FAX：044-211-4118
 Email：
 sasahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくり情報交換誌」を目指して
 います。タウンマネージャーにお
 気軽に情報をお寄せください。
 ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

◇道路適正利用一斉パトロール

川崎駅の特に東口地区における商店の「はみ出し商品展示」及び「はみ出し広告」が、来街者・歩行者・車椅子歩行者にとって大きな負担となり、これら状況に対して強い不満と抗議の声が次第に大きくなってきていることに強い危惧が商業者及び行政の中に広がってきております。かわさきTMOは、「商店街協定」を提案し、協定の締結および優良店の認定と拡大という対策を講じてきましたが、商店街協定の順守拡大よりも、実際には「はみ出し商品展示とはみ出し広告」の個店間のはみ出し競争が圧倒してしまおうというのが現状です。そこで、川崎市路政課の声がかりで「道路適正利用推進協議会」が立ち上がり、行政、警察、商業者、町内会が一体となってこの「はみ出し」問題に対応することとなりました。

その具体的行動の第一段が、7月3日に行われました。川崎駅東口商業地区（川崎駅と旧東海道に挟まれた地区）を対象として、一斉パトロールによるはみ出し商品展示及びはみ出し看板の一掃を行いました。パトロールは、川崎市関係部署、川崎警察署、商

店街、町内会から総勢80名が参加し、7班に分かれ、午後4時から一斉に道路法第四十三条および道路交法第七十六条違反による是正指導を行うという大掛かりなものでした。

パトロールは、事前に通知されていたため通常ははみ出してはいる店舗がその日は公道上の商品展示を規制しているケースも多くみられました。しかし、事前通知にもかかわらず、当日もはみ出し商品展示およびはみ出し看板を設置している店に対し、公道上からの撤去を指導し、その数は101件にも及び、これら店舗はすべてリストに記載され、さらに今後も違反が継続される場合は、法に基づいた対処がなされることとなります。このパトロールの結果、「歩道が歩けるようになった」とか「通りが広くなり歩きやすい」「お店もやればできるですね」などの声が通行者から聞こえてきました。

パトロールの翌日一部の店は、前日同様にはみ出しを自制している店も見られましたが、元に戻ってはみ出しを始める店も多くみられました。一朝には解決しないと思われませんが、今後も継続してパトロールを行っていくこととなります。



（タウンマネージャー 笹原克）



◇客引き規制条例づくりへ

川崎駅周辺地区の快適性を阻害させている大きな要因の一つに「客引き行為」があります。それは、「はみ出し行為」とともに、道路適正利用を図る際の今解決しなければならぬ課題であります。しかし、ここで「はみ出し」問題との違いがあることがこの問題解決を複雑にしていることを知る必要があります。それは、現在みられる「客引き」を規制する法的根拠がないことです。先に見たように「はみ出し」は、道路法及び道路交通法による違反行為であることが、パトロールの根拠となっております。「客引き」は、風俗関係の「客引き」に関しては神奈川県迷惑防止条例がありますが、川崎駅周辺で見られる飲食店の「客引き」は、県防止条例に適用できないという問題を抱えているのです。

そこで、かわさきTMOでは、独自の「客引き」防止条例の制定の必要性を提言してきました。実際に新宿区の「客引き」防止条例のヒヤリング及び視察を行い、その内容についてTMO通信においてもお知らせしてきました。昨年末の市議会でも本問題が川崎選出市議から質問され、再び本年6

月議会でも客引き防止条例に関する質問の中で福田市長は、「警察や地元商店街等の連携が重要になる。今後、市条例の制定に向け、関係する局区が一体となって取り組んでまいりたい」との答弁がありました。

客引き問題は、単に条例を制定したからと言って解決するものではありません。条例の制定は、むしろ、客引き防止の始まりにすぎません。しつこい客引きや悪質な客引きは、街の安全・安心を脅かし、街の質を著しく低下させることとなります。そのような街の快適性を棄損する行為の広がりは、来街者を遠ざけ、街の衰退につながりかねません。条例を法的根拠として街全体で客引きを取り締まっていく覚悟が問われているといえます。

◇総会開催報告

6月23日、川崎商工会議所会議室にて、平成26年度第1回かわさきTMO総会が28会員中16名の参加を得て無事終了。平成25年度事業報告・収支予算、平成26年度事業計画・収支予算案すべてが承認されました。笹原マネジャーからは、「TMOの趣旨である『地域の価値を上げる』と

いう原点に今一度立ち返り、価値を上げる要因となる東口商店街の環境悪化（はみ出し看板、はみ出し展示、汚れ等で歩きにくい、客引きが怖い、といった来街者の声へ届いていまずを改善していく正念場の一年としたい」と今年度の抱負が語られました。今年度事業運営方針についての各部会からの説明はつぎの通りです。

【商店街協定部会】商店街協定について広報による周知を行う。商店街協定をベースに立ち上がった道路適正利用推進協議会では、風俗だけでなくすべての客引きを禁止する条例を呼びかけた。

【イベント連携部会】今年度フェスティバルなかわさきへの参加団体がさらに増え17となった。周辺商業地域とも協力してさらなる盛り上がりを実現したい。

【共同販促部会】商店街・大型店との共同販促事業を十店会の協力を要請しながら進めていきたい。

【回遊性向上部会】オープンカフェの常設は、公道上に開設する許可を取るのが難しくハードルが高いが、ゆくゆくは駅周辺から富士見公園あたりまでの範囲で設置したい。また、電気

自動車を活用したペロタクシーの街中展開も検討する。

【提言部会】JR川崎駅北口に続く南口改札の開発や大型バス停留所など川崎へ観光に来てもらうためのインフラ整備への提言は引き続きの大きなテーマ。また、アクセス・クリーン・エンジョイのACE戦略を進めるために、憩い樂しめる川崎駅前のシンボリック存在としての富士見公園の開発についても考えていきたい。



かわさきTMOについてのご意見・ご要望がございましたら、事務局までよろしくお願いたします。なお、制作中の「川崎駅周辺中心市街地国際化ガイドマップ」は9月完成予定です。

(事務局 六反友佳里)

かわさきTMO通信

<毎度おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです>

2014年10月号 No.55

- 秋のイベント盛り上がる
- 道路適正利用パトロール
- 川崎市総合計画のゆくえ
- 事務局便り

発行元：川崎高工会議所
 発行責任者：会長 篠原俊夫
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2014年10月25日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-211-4114
 FAX：044-211-4118
 Email：
 sasahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくり情報交換誌」を目指して
 います。タウンマネージャーにお
 気軽に情報をお寄せください。
 ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

◇秋のイベント盛り上がる

川崎の秋のイベントを多くの人に知ってもらうために、平成19年度に6つのイベントを広くPRするため開始した「フェスティバルかわさき」の事業が、本年度は17のイベント団体の皆様に「ご参加いただき、9月27日（土）より川崎区・幸区で順次開催されています。

お楽しみみの、タツチラリーも10月11日（土）から11月2日（日）までの毎週末に実施しています。



→ 今年度告知ポスター、JR南武線・鶴見線の車両窓上などに掲出しています。

9月26日（金）には、イベント団体の皆様ならびにイベントを盛り上げるマスコットキャラも参加して、福田川崎市長を訪問したり、翌27日（土）には、ランナー川崎プラザ・ルーフア広場をお借りして盛大に告知イベントを実施してオープニングを飾りました。



▲エイエイオーと盛り上がった市長表敬！



→ 3年目の告知イベントで、年々大きくなるジェンカの出陣。今年のテーマは「イベントでつなぐ絆」でした。

今年度は、川崎市制90周年を記念して「川崎を一步先へ、もっと先へ」を合言葉に各イベントごとに一段と趣向を凝らして皆様方のおいでをお待ちしております。

9月・10月のイベント前半戦は天候にも恵まれ順調に進んでおります。



▲29回目を迎える「かわさき阿波おどり」。子ども連、地元連、近郊からの強豪連合計14連が参加。

今後についても、日本一の呼び声も高い「カワサキハロウィン」をはじめ「かわさき市民祭り」「日吉まつり」道灌祭「モントルー・ジャズ・フェスティバル」など様々なイベントが目白押しです。

ぜひこの機会に魅力満載の川崎を再発見して頂ければ幸いです。

（事務局 神谷修）

◇道路適正利用パトロール

川崎駅東口周辺の商業環境の悪化現象は、「市民の声」を通じて、地元商業者に大きな衝撃を与えています。商店街は、これまで自主的に「商店街協定」を結び、商業環境の改善に取り組んできましたが、その試みをはるかに超えて環境の悪化を市民⇨消費者がとらえられていたという事実は、商業者のモラルまで問われてきました。市民の声は、「商売をしている方は、何を考えて看板や商品を道路に出しているのでしょうか。法律に触れるようなことをして、恥ずかしくないのでしょうか」と訴えています。さらに「私はしばらく、川崎駅東口での買い物は控えるつもりです。(略)商店街のみなさん、本気で頑張ってください。お願いします」と結ばれています。この文書からは、この市民の声を発した方が、本日は東口商店街が好きなが読み取れます。このように、東口商店街を支持してくれていた市民⇨消費者に愛想をつかれるような、商業環境になっていく現実を、商業者は、目を凝らして、真摯に見つめる必要があります。

本年3月に行われた通行量調査に

において、東口の通行量が減少する傾向がみられました。その原因は、一時的に雨が降ったことがあると思えますが、それだけが本当に原因だったのでしょうか。声にはださなくとも、「東口での買い物は控えるつもりです」と思っている市民⇨消費者が潜在的に増えているのではないのでしょうか。買い物は、楽しく、安全に、便利にしたいものです。その環境を商業者自身が疎外しているとすれば、それは、商業者が自身自ら、市民⇨消費者を遠ざけて、自分の首を絞めていることにはかなりません。

7月3日を皮切りに、川崎市、川崎警察、地元商店街、TMOが中心になって道路環境の改善パトロールを実施しています。しかし、パトロールが過ぎると、再び看板を道路に置き、商品を道路に並べる店が多くみられます。11月17日から21日までの5日間、連続してパトロールを行います。この連続パトロールを契機に公道上への違法の看板設置や商品展示を一切なくすことに、商業者の意識を確立したいものです。是非、商業者の奮起が期待されます。

(タウンマネージャー笹原克)

◇川崎市総合計画のゆくえ

本年度と来年度にかけて「川崎市の総合計画」の策定作業が進められています。将来の川崎市のあり方を6年後(2020年)、10年後(2024年)、16年後(2030年)を目標年次として策定していきます。計画のキャッチフレーズは、「成長と成熟の調和による持続可能な最善のまち かわさき」となります。現在は、計画にあたっての策定方針が出されました。その前提となる基本認識は、6つあります。第一が「少子高齢化・人口減少」。第二が「厳しい財政状況」。第三が「都市インフラの老朽化」、第四が「産業経済の環境変化」、第五が「災害や環境問題への対応」、第六が「市民の主体的取組み」となります。今後様々な階層での意見を集約させて、計画が策定されます。注目していきます。



(タウンマネージャー笹原克)

◇事務局便り

●今年も始まりましたタッチラリー。昨年度と一部ルールを変更し、これまで3つまで利用できたICカード類が今年は1人1つとなりました。単純に計算するとタッチ数は3分の1かということになりますが、初日タッチ数は4892と昨年度5317と大差のない数字が出ました。その後も数字は好調に推移、18日には8033まで伸びました。すっかりおなじみになったタッチラリーが街の回遊性向上に一役買っていることを願って、11月2日までの毎週末、タッチラリー機はフル回転いたします。景品提供をいただいた多くの企業や個店の皆様、この場を借りてあらためてお礼申し上げます。

●かわさきTMO平成26年度第2回総会を11月25日(火)、午後3時〜4時半、川崎市産業振興会館12階会議室で開催いたします。今回の総会では、平成26年度活動の中間報告が主なテーマとなります。会員の皆様には、あらためてご案内をお送りいたしますので、どうぞよろしく願います。

(事務局 六反友佳里)

かわさきTMO通信

<毎度おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです>

2014年12月号 No.56

- クリーン アンド セイフティ
- 客引き防止条例の制定に向けて
- 平成26年度第2回総会報告

発行元：川崎高工会議所
 発行責任者：会長 篠原俊夫
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2014年12月25日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-211-4114
 FAX：044-211-4118
 Email：

sasahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくりに情報交換誌」を目指して
 います。タウンマネージャーにお
 気軽に情報をお寄せください。
 ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

◇クリーン アンド セイフティ

欧米の都市の中心地が衰退したのは1975年頃からであった。その後様々な方法を駆使して、再び活気を取り返したのが2000年頃からであろうか。その間に様々な制度が取り組まれ、市民の積極的な活動、企業家たちの取り組みなどが、街の再生を可能としてきている。提案され実行された事業は都市の性格や立地などでさまざまであるが、比較的共通して行われている事業がある。それは、「CLEAN AND SAFE TY」と呼ばれる一連の事業である。70、80年代のニューヨークを歩かれた方は、その汚さに驚かされ、「どこは危険だから寄っては駄目ですよ」などと地元の人に言われたのを思い出す。今、ニューヨークを訪れると、隔世の感で、ニューヨークは安全できれいな街になった。都市を離れた人が戻り、新しい観光客がニューヨークを訪れている。

一方、我が国を訪れる外国人に日本の印象を聞くと、「街がきれいで、安全」と答える人が多い。これは、街がきれいで安全であることが当たり前かと思われているわれわれ日本人には、驚きであった。むしろ、日本の町並みは



バラバラで、ヨーロッパの町並みに比べると劣っているかと思っていた。そこで、なんとか日本の都市景観もヨーロッパの都市のようにしたいと思ってきたのである。川崎駅周辺でも、チャタデラは、イタリア・サンジミニアーノをモデルとしたと聞く。たちはな通りは、フランスの街をモチーフにした通りを目指している。市役所通りの銀杏並木もバリのシャンゼリゼ通りがイメージにあるのかもしれない。このようにわれわれは、欧米の都市景観をすぐれているとみるが、逆に、我が国を訪れた外国人は、日本の都市が清潔で女性が一人で歩いても安全であることに驚くのである。まさに、外国の都市が目指している都市の「クリーン アンド セイフティ」が日本の都市で実現しているのである。

ここで、川崎駅周辺をあらためて眺めてみよう。特に、川崎駅周辺地区は、その都市景観を大きく変え、東口も西口も十分に絵になる。写真写り映えのいい都市の顔となった。まことに喜ばしいといえる。しかし、商店街に入ると、道路に大きな看板が競うように並び、お店の前は露店のように商品が散らばり、客引きが何人も寄ってくるのである。日本の都市が誇っていた「クリーン アンド セイフティ」がそこにはない。特にここ数年のエスカレーターが目に見える状態となっている。街は来街者が命である。この街に住む人、働きに来ている人、遊びに来る人、買い物に来る人、映画を観に来る人、音楽を聴きに来る人、食事に来る人などなどのいろいろな人が、安心して楽しく過ごせる街でなければ、人は去っていく。一部のコンプライアンス（法令順守）のない人たちの行為が、街全体を印象づけており、人を遠ざけるとしたら、ほんとに残念なことといえる。是非、ここは商業者の矜持を示す時である。本来の川崎の街をとり戻し、誰でも喜んで集まれる街にしたいということが、今求められている。

(タウンマネージャー 笹原克)

◇客引き防止条例の制定に向けて

川崎駅前周辺では、夕方になると、若い男や女が手にバットを持ち、携帯電話を片手に言い寄ってくる。飲食店の客引きである。通りを歩く間に数人の客引きに声をかけられる。このような経験をした人は、多いと思われる。声をかけられたことがなくとも、そのような姿を見かけた方がほとんどであろう。

公道上での客引き行為は、神奈川県迷惑防止条例という法律で禁止されている。ただし、ここで客引きの対象となっている行為は、風俗営業店の客引きが対象となっている。よって、川崎駅前で見られる飲食店の客引きは対象外なのである。TMOでは、一年半前から、飲食店などの客引きを問題視しており、条例による規制を検討、提案してきた。この提案を参考に川崎区選出の市議会議員が議会で質問し、大きく取り上げられるようになった。さらに、議会での質問がつづき、市長が条例への検討を始めることを答弁し、客引き防止条例の制定に向けて一歩が踏み出された。その間、新宿区の条例化に端を発し、厚木市、大田区、大阪市など全国で客引き防止条例制

定の動きが活発化している。

さて、川崎市の客引き防止条例であるが、まだ、いつ条例が議会に提出されるか不明であるが、他都市の先行事例を踏まえた条例案が検討されていると思われる。しかし、条例を制定することが目的ではなく、かつ条例を制定すれば客引きがなくなるものではないことは、新宿区のヒヤリングでも明らかである。よって、条例の制定は、客引き防止を規制するための、条件整備ととらえることが必要である。道路のみ出し看板や商品展示の規制においても、法的根拠をもってはじめて規制する活動ができるのであり、客引き防止においても、条例ができることで、客引き規制の活動が可能となるのである。



(タウマンネージャー笹原克)

◇平成26年度第2回総会報告

11月25日、川崎市産業振興会館会議室で、今年度第2回目のかわさきTMO総会が開かれました。



今回は審議事項なしで、活動についての中間報告が主な内容でした。各部会からの報告概要は次のとおりです。

19イベントで実施。電車掲出や駅貼りのポスター、ラゾーナ川崎プラザでの告知イベント等々、低予算の中でのかなりの効果が上がっていると好評。

【提言部会】「アクセス・クリーン・エンジン・川崎明日のACE戦略」をキーワードに「川崎駅周辺における商業活性化に向けての提言(第3版)」を作成。今後も商業活性化に向けてさらに提言の数を増やしていきたい。

【地域共同販促部会】川崎駅周辺情報だけに特化したこれまでにない外国人向け情報紙「国際化マップ」が年明けには完成予定。また、TMO自立化に向けての財源確保の手段としてTMOカードの導入を検討中。

【商店街協定部会】11月17日から21日まで連続5日間、はみ出し陳列をなくすための連続パトロールを実施し、少しずつ効果が出てきている。ゆくゆくは「客引き防止条例」の制定にもつなげていきたい。

【回遊性向上部会】オープンカフェは5月の実施に続き、3月にも行う。「歩く人をサポートする交通体系づくり」の一環として取り組んでいる電気自動車は、全国の事例を集めて事業形態について検討を行っている。

【イベント連携部会】フェスティバルなかわさき共同PR事業は、最多の

報告後の質疑応答では、連続パトロールの目的である「はみ出し陳列をなくしてきれいで歩きやすい街づくりをしよう」という趣旨について活発な意見交換が行われた。

会員の皆様には、平成26年もかわさきTMOへ、ご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございました。平成27年もどうぞよろしくお願いたします。よいお年をお迎えください。

(事務局 神谷修 大反友佳恵)

かわさきTMO通信

<毎度おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです>

2015年1月号 No.57

- かわさきTMOからの提言
- 「羊」年を迎えて
- 成熟社会の経済
- 事務局便り

発行元：川崎高工会議所
 発行責任者：会長 猪熊俊夫
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2015年1月25日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-211-4114
 FAX：044-211-4118
 Email：
 sasahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくり情報交換誌」を目指して
 います。タウンマネージャーにお
 気軽に情報をお寄せください。
 ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

◇かわさきTMOからの提言



明けましておめでとございます。新年ですので、すこし明るい夢を見ようかと思えます。TMOの中に提言部会（部会長・戸村正厚）があります。この部会で、これまでのTMOの活動を含めて、将来の川崎駅周辺地区の姿を提言する作業が進んでおり、近々「提言書」がまとまる予定です。ここで、議論されている内容をすこし、ご紹介しようかと思えます。

提言書は、「明日の川崎 ACE戦略―川崎駅周辺地区商業活性化戦略―」となっています。三つのキーワードA・C・Eでまとめられています。「A」は、ACCESS（アクセス）です。交通の利便性から誰にとっても親しみ近づきやすい街づくりをめざすものです。中心市街地回遊バス（ワン

コインバス）、川崎発の電気自動車による小さな回遊をつくり、LRT（ライトレール）ランジット（路面電車）による大きな回遊性をつくります。大型バスの停車・駐車場を駅周辺につくり、国際化した羽田空港とのアクセス改善などが提言されています。

次いで「C」は、CLEAN（クリーン）です。安心、安全、快適な美しい街づくりをめざします。昨年からは腰を入れて始まった商店街のクリン化を成し遂げます。特に、店からはみ出して置いてある大きな看板や道路まで広がった商品展示、道に放置された自転車、道路に設置された大型ごみ箱などを排除し、適正清潔な商業空間をつくりたい。また、国際化に向けた国際化案内表示の統一、コンベンション施設、シティーホテルの立地、さらにWiFiの無線LAN環境や都市サービスを提供できる街づくりをめざします。

三番目は「E」で、ENJOY（エンジョイ）です。楽しく憩えて活気ある街づくりをめざします。川崎駅周辺には、ミネーザ、チネチッタ、ラゾーナなど大型の集客施設がありますが、街なか全体が、劇場のように楽しく憩

える文化的な街づくりをめざします。音楽の街（かわさきバスカ）、映像の街、スポーツの街などの仕掛けを街なかにつくっていきます。

これまでのTMOの活動をふまえて、将来の姿が見えるようにすることで、明日への一歩を踏み出していけると思っています。

（会長 猪熊俊夫）

◇事務局便り

かわさきTMOでは、3月17日の火曜日に4回目となるオープンカフェを実施いたします。これまでの川崎商工会議所前スペースから、場所を商店街（平和通り商店街）へ移しての試みとなります。開設時間は、午前11時30分から午後4時を予定しています。

1月に実施した来街者アンケートでも「休憩のできる場所」を川崎駅周辺に求めておられる方が多くいらっしゃいました。

街の雰囲気や回遊性がどのように変化するか、お昼休みにでもぜひ見学（もちろんご利用も）にお越しただければ幸いです。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

（事務局 六反友佳里）

◇「羊」年を迎えて



明けましておめでとございます。今年が羊年です。羊は、祥にも通じ吉祥のめでたい動物です。家族の安泰と平和な毎日が暮らせるということの意味すると聞きました。今年が、平和で安泰であることを祈る新年です。一方で未、昧と書き、暗いという意味もあると聞きました。一抹の不安を覚えます。

TMOの活動も8年を超えて9年目に入っております。その間、様々な活動がなされて、一つ一つが実となって進んでいることが、成果だと感じています。いくつもの事業としての成果を取り上げることができませんが、最も大きな成果は、川崎駅周辺地区の様々な商業者が一つになって集まり、一緒に議論し、考え、行動することだと思っております。

他の都市に何うと、商業者が互いに敬遠していたり、ひどい場合は静いを起していることも少なくありません。都市の商業は、一つの店、一人の商人では成り立ちません。その意味で、かわさきTMOは、川崎駅周辺地区の商業者全体が共通のテーブルを囲むことができることに大きな意味があるのです。

大型店、二つの商連、主な金融機関そしてオプザバーとしての行政で議論される意見は、街づくりの方向を示すことにつながっています。今年、より強い意味で、商業者が一体になって、商業の活性化、街づくりに取り組んでいきたいと思っております。

また、もう一つ大切なことが、「連携」です。店と店、商店街と大型店、商店街と商店街、商業と工業、川崎駅周辺地区と神奈川口地区(殿町)など様々な連携を構築することで、新しい局面をつくり、新しい可能性を見ることができると思います。

今年が、是非、暗い未を乗り越えて、明るい羊の年となるように頑張りますように。

(副会長 馬場義弘)

◇成熟社会の経済

我が国の人口が、2008年に1億2千800万人をピークに、以下減少していることはみなさんご存じのことです。これは、成長社会から成熟社会に移行したということとなります。戦後50年の経済成長社会、その後20年のデフレ社会、そして戦後70年を迎えて今は、なんとか成熟社会に入ろうとしています。しかし、成熟社会がどんなものなのかよくわからないため、なんとか戦後50年の経済成長社会に戻りたいという願望に向かっていきます。我が国の成長率を何%にするとか、インフレ率を何%にするとかの話になっていきます。新古典派経済のみならずは、市場にお金が溢れば、インフレになり、経済が成長すると考えます。国債をじやぶじやぶ発行して、それを日本銀行がどんどん買い取っていきます。しかし、グローバル社会において、どんどん印刷するお金は、国内に留まらないで(留まっていればインフレになるでしょう)、海外、特に米国に流れ込んで、米国の株式に流れ込み、ニューヨークダウが上がれば、翌日は東証株価が上がります。その結果、日本の景気は良くなったとなります。

す。

ちょっと待ってください。本質は、人口減少からの成熟社会に移行していることです。これは、つまり需要が減少するということです。需要が減少すれば、供給も減少します。そうしなければ、価格はどんどん下がります。いわゆるデフレです。つまり、供給が溢れており、いかに供給を少なくして、需要に見合わせるかが問われているのです。しかも、需要は単なる量的なものではなく、大きく質的内容に転換してきます。消費者のニーズが多様化して、文化的選択を付加させてきています。この消費者のニーズに対応することが、成熟社会の商売の方法となるでしょう。世界的に言えば、一人当たりGDPが2万ドルをこえると、多様化し、文化的消費になるようです。日本の一人当たりGDPは、3万7千500ドル(2014年)です。とっくに、成熟社会に入っているのです。いつまでも、昔の経済成長社会にしがみつかないで、新しい社会に向かって、勇気をもって(過去の栄光を捨てて)踏み出す年にしたいものです。今年こそ、一步を踏み出す年となりますか。

(タウンマネージャー 笹原克)

かわさきTMO通信

<毎度おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです>

2015年3月号 No.58

- 来街者アンケート速報(1)
- 来街者アンケート速報(2)
- 事務局便り

発行元：川崎商工会議所
 発行責任者：会長 篠原俊夫
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2015年3月25日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-211-4114
 FAX：044-211-4118
 Email：
 sasahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくり情報交換誌」を目指して
 います。タウンマネージャーにお
 気軽に情報をお寄せください。
 ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

◇来街者アンケート速報(1)

今年も東口商店街地区での「来街者アンケート調査」を1月22日(木)の平日と1月25日(日)の休日に実施し、2日合わせて297(平日142、休日155)人の来街者の声を集めることができました。

詳細な報告は、TMO活動報告書において行いますが、ここに速報としてまとめます。

来街者アンケートは、商店街協定の実効性を高めるために継続しており、川崎駅東口商店街への来街者の特性を広く知ることができそうです。調査地点は、川崎銀座商店街、銀柳街商店街、チネチッタ通り商店街の3か所。11時から16時までの間で調査を行いました。

最初に、アンケートに回答をいただいた来街者全体の特性をみます。

- 男女別では、男性が34%、女性が64%です。
- 年齢別では、70歳代が24%、60歳代が23%、60代以上で概ね半数を占めました。次いで30歳代が16%、50歳代が12%、40歳代が11%でした。
- 居住地は、川崎区が48%、川崎市以外の神奈川県内が19%、幸区が

13%、東京都が11%、市内川崎区・幸区以外が7%となります。

概要をつかむと、「女性が6〜7割、年齢は60代、70代が5割、居住地は川崎区が5割、川崎市以外が3割となります。

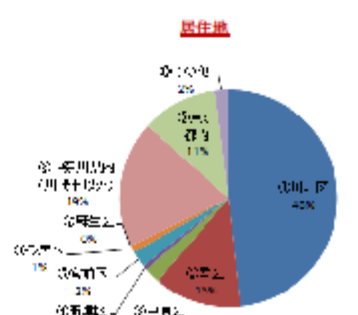
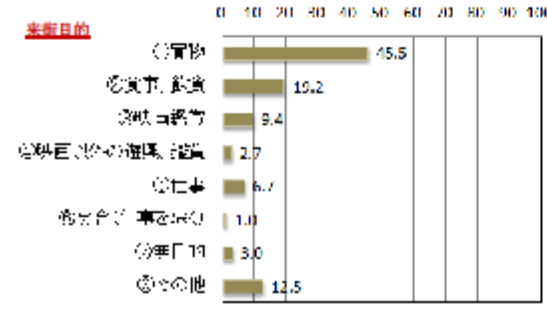
■来街目的は、「買い物」が46%と過半に近くを占めています。次いで、「食事、飲食」が19%、「映画鑑賞」が9%という順です。

■来街頻度は、「週1〜2回」が30%、「月1〜3回」が20%、「週3〜4回」が18%、「週5回以上」が17%となっています。

■街の魅力は、「交通利便性」が45%、「何でも揃う」が40%、「慣れている」が27%、「価格が安い」が20%となっています。

■街の課題は、「ゴミ・吸い殻」が26%、「放置自転車」が25%、「風俗店の看板」が14%、「客引き」13%、「治安・防犯」12%、「はみ出し陳列」が11%となっています。

■あるといい施設は、「休憩できる場所」が31%、「歩きやすい歩行空間」が20%、「駐輪場」が19%、「公園」と「駅東西回遊100円バス」がそれぞれ18%となっています。



■どこを改善すればよくなるかに対して「アーケード設置」が19%、「はみ出し看板の撤去」が18%、「はみ出し陳列商品の店内への格納」が15%、「イベント」が13%となっています。■アクセス方法は、「鉄道」が33%、「バス」が30%、「徒歩」が26%、「自転車」が19%となっており、鉄道の内訳は、「京浜東北線」と「京浜急行」が12%、「南武線」が8%となっています。

■街に滞在した時間は、「2～3時間」が40%、「1～2時間」が23%、「30分以内」が18%、「30～60分」が14%となっています。

◇来街者アンケート速報(2)

川崎区在住の来街者と、川崎区以外に居住している来街者との比較をしてみます。

最初に来街目的ですが、川崎区在住者は、「買い物」が57%と6割近くを占めて、次いで「食事・飲食」が17%、それ以外の項目はすべて4%以下となっています。

一方、川崎区以外からの来街者は、「買い物」が36%、「食事・飲食」が21%、「映画鑑賞」が15%、「仕事」が10%となっており、映画や仕事での来街が大きく増えており、特徴的な結果が出ています。

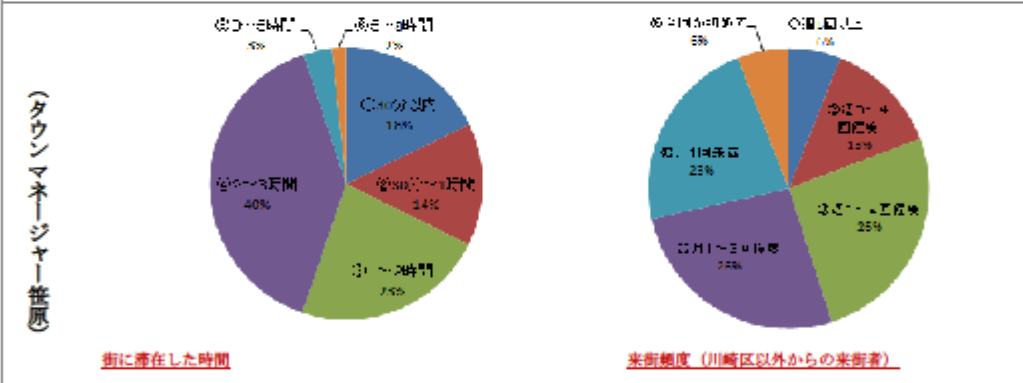
また、来街頻度についても、川崎区在住者の場合、「週1～2回」が34%、「週5回以上」が28%、「週3～4回」が24%となり、週1回以上の来街者が84%となり、日常的に商店街が利用されていることがわかります。

一方川崎区以外からの来街者は、「月1～3回」が26%、「週1～2回」が26%、「月1回未満」が23%、と月に0回から3回程度の来街頻度となります。

滞在時間も川崎区在住者は、「2～3時間」が31%、「1～2時間」が26%、「30分以内」が24%となっています。

一方、川崎区以外からの来街者は、「2～3時間」が47%と半数近く、「1～2時間」が21%、「30～60分」が11%、「3～5時間」が5%、「5～8時間」が3%と3時間以上の滞在が8%となり、長時間の滞在となっていることがわかります。

これらアンケート結果のさらに詳しい内容は、TMO活動報告書(平成26年度)に掲載しますので、参考としてみてください。



◇事務局便り

第10回イベントサミットが、これまでの最高となる17団体19イベントが参加した今期フェスティバルなかわさきの反省会として、3月5日に開かれました。

多くの団体が集まる利点を活かし相互で備品の貸し借りをを行い、経費節減や保管場所の悩み解消につなげようといった提案もなされ、今後「貸し出し可能な備品等リスト」を各イベント団体に提出してもらおうことで情報交換を行っていくことも決まりました。

ご協賛ご協力いただきました企業等の皆様、この場を借りて、あらためてお礼を申し上げます。なお、次年度フェスティバルなかわさき実行委員会は5月始動となります。

今号は、平成26年度最終号となります。次年度もかわさきTMOをどうぞよろしく願っています。

(事務局 六反友佳里)

